2017年5月期第２四半期 決算説明会

2017年1月27日

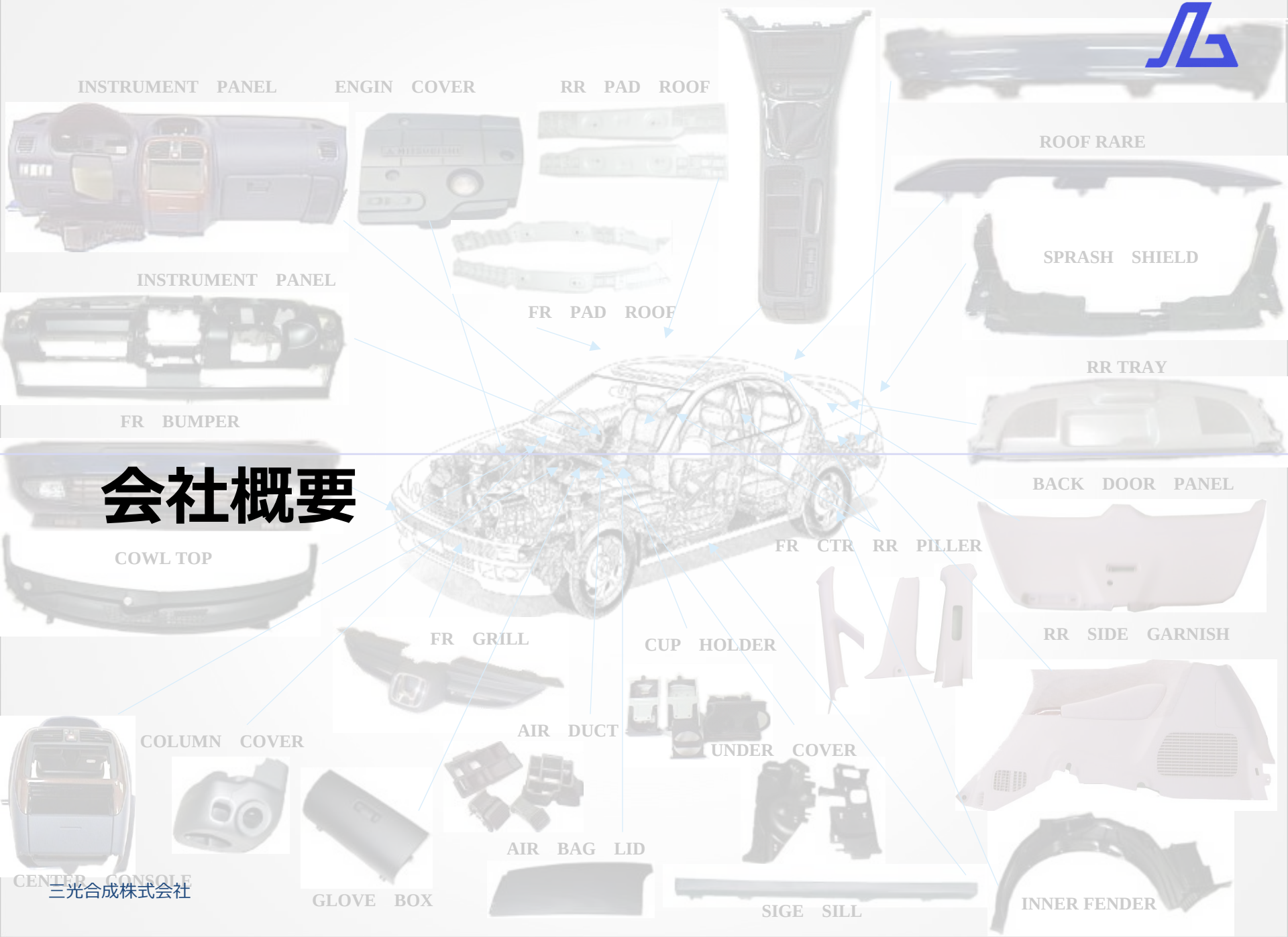
三光合成株式会社

Ⅰ　会社概要　2

Ⅱ　2017年5月期第２四半期連結決算概要　10

Ⅲ　2017年5月期 連結業績予想　21

会社概要



三光合成株式会社

特徴と強み

最大の特徴：金型設計・製造部門をグループに内抱
－樹脂成形メーカーとしてきわめてユニーク、品質信頼感に寄与
マザーツール（金型）が支える「マザー機能」

「特殊商品」の存在
－一見すると低付加価値だが、他社では製造できない商品
「これがなければ車が動かない」製品など

M&Aを通して生産拠点と、製品バラエティを拡大
－アメリカでは7年ぶりの製造拠点を買収
既存事業の補強とともに、新付加価値分野へ進出

国内事業所（成形6工場　金型2工場　営業所5拠点）

本社・富山工場

テクニカルセンター

大窪工場

群馬工場

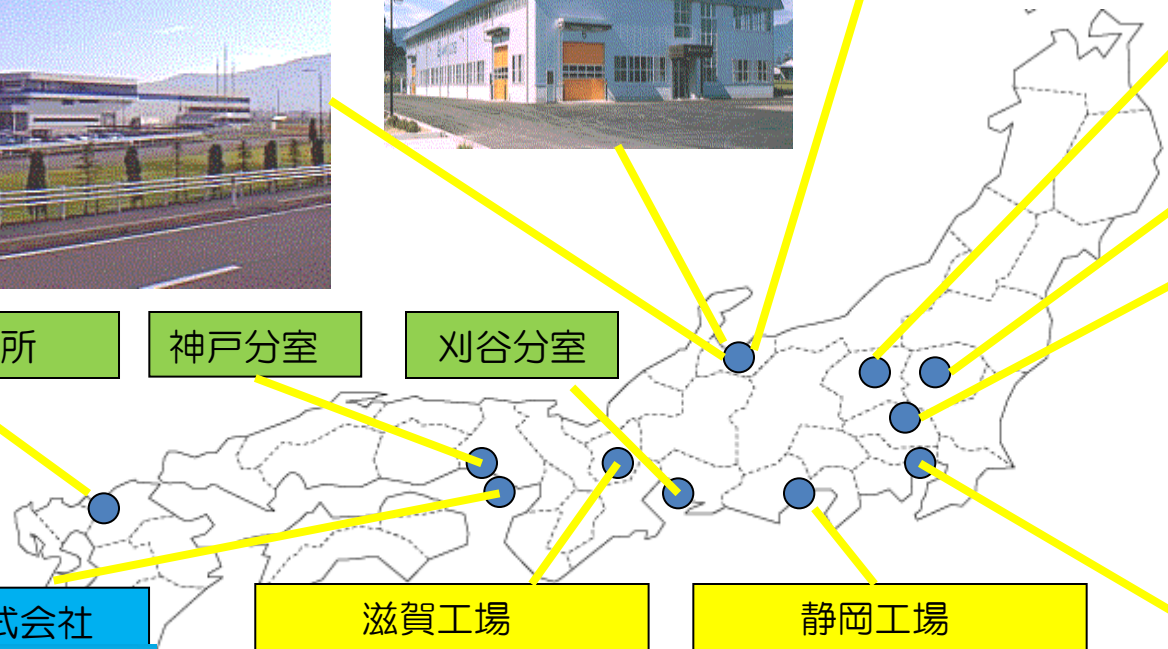
栃木分室

熊谷工場

九州駐在事務所

神戸分室

刈谷分室



エスバンス株式会社

滋賀工場

静岡工場

東京事業所

海外事業所（10カ国/16法人）

M&Aによる事業の拡充と進化、金型事業で拡充が急展開

	社名	M&A形態	事業分野	今後のポテンシャル
2014年7月	双葉電子工業	持分の14.86%を三井物産から取得、筆頭株主に	蛍光表示管、金型用部品、など	成形品と表示管を複合させた部品の開発から提案
2015年4月	積水工機製作所 （現社名：エスバンス）	33.01%の持分から、全株取得へ	自動車バンパー等大型プラ金型	欧米市場への販売、インパネ・バンパー付属金型の受注拡大
2015年4月	Bhar Inc. (米インディアナ州)	約18億円で事業譲受	車両用プラスチック成形部品	需要が旺盛な米国市場へ参入 グローバル化の対応
2015年10月	SANKO SEKISUI JRG TOOLING INDIA （インド、ハリヤナ州）	・増資引き受けにより、持分25%⇒75% ・JRG保有株式10%を買取　75%→85%（2016年3月） **・双日プラネットに29%を譲渡（2016年12月）**	車両向け金型	経営を主導し、日系自動車メーカーに大型金型を供給

米国への再進出に加え、世界各ブロックで金型事業を強化
金型事業を内包する事業形態の強みをさらに拡充、
グローバル供給の勝者を目指す

一貫した「品質の連鎖」が「総合品質：顧客満足」へ

通常は金型専業メーカーに委託する部分

製造現場の
悩みとニーズ

三光技術者の
提案

CAE解析

86年国内草分け
として導入

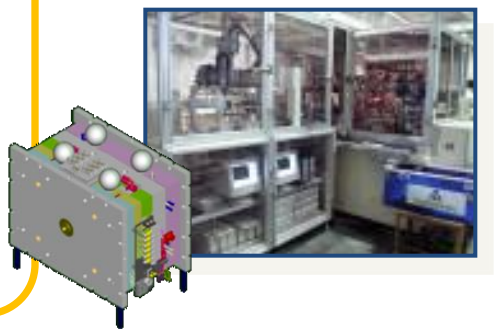
金型メーカーとして
最長のレコード
保持

金型設計・制作

スタート段階から
大量生産に耐える設計

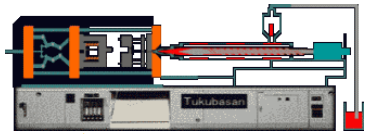
専業金型メーカーとの
最大の違い

**省力化機器
製作**



この「不具合逆流プロセス」を排除！

量産



（通常のメーカーなら）
大量生産特有の
不具合発生

品質管理

製品納入

「顧客メーカーのニーズ
発生⇒大量生産⇒納入」
プロセスに一貫してコミット

金型設計の段階から、
大量生産に耐える設計、
「工程不良 5/10,000」を
常に意識

金型を通したマザー機能

国内で新車用部品金型の開発⇒**世界中へ展開**

各国の三光拠点が金型の品質維持ー**不具合は現地改善+日本にレポート**

『不具合とソリューション』データのグローバルな蓄積へ

完成車メーカーのグローバル生産（一例）

特殊商品の例

名称：**インペラ**

機能：燃料ポンプ内に組付ける部品電動モータとインペラ（羽根車）が燃料ポンプ内に内装され、モータの回転に連動してインペラがガソリンを押し出す仕組みになっている。

技術：お客様から燃費向上のために従来とは異なる羽根の形状で量産したい相談を受ける。
複雑な羽根形状のため、従来の金型では量産化が不可能であったが、弊社のあらゆる技術を駆使して金型製作を行い量産化に成功した。

名称：**パワーピストン、ブレーキブースター等々**

機能：ブレーキの倍力装置の部品
（ブレーキを軽く踏んでも機能を果たす部品）

技術：高い部品精度の要求
従来は、熱硬化性樹脂で量産していたが、大量生産及びコストダウンのために現在は熱可塑性樹脂で量産している。

リキャップ　　ストリーキャップ

名称：**リキャップ、ストリームキャップ**

機能：紙パック飲料のキャップに使用。
技術：・食品関連部品のため、クリーンルームでの生産。
・よって、成形、溶着、検査、梱包までを全て無人の自動化で対応。

2017年5月期第２四半期 連結決算概要

三光合成株式会社

2017年5月期第２四半期　決算のポイント

■ **売上高は小幅減収、営業減益ながら、経常、当期純利益では大きな増益に**

地域別売上高では、国内が前年同期比2.5%増収となった一方で、欧州が同2.2%減収、アジアでは同19.6%と大きなダウンに。これに伴い、地域別営業利益では国内が同19.4%増益となっているものの、アジアは213百万円の赤字（前年同期は16百万円の赤字）に陥った。

事業別売上高は、情報・通信機器が同2.7%増、車両が同1.1%減、家電その他が同3.9%増、金型が同26.9%の大幅減に。これは主に子会社エスバンスで一部事業の売却があったため。

営業利益段階では減収のために減益となったものの、円安転換に伴う為替差益の影響で経常利益、当期純利益は大きく増益に。

■ **タイ現法のマーケティング体制改革へ**

日系完成車メーカーで部品点数削減の動きが減収につながるが、経営体制を一新し、海外メーカーからの受注獲得も視野に入れて注力。

- 営業利益　：　1,076百万円　（前年同期比 △22.9%）
- 経常利益　：　1,042百万円　（前年同期比 +32.8%）
- 当期純利益　：　796百万円　（前年同期比 +49.7%）

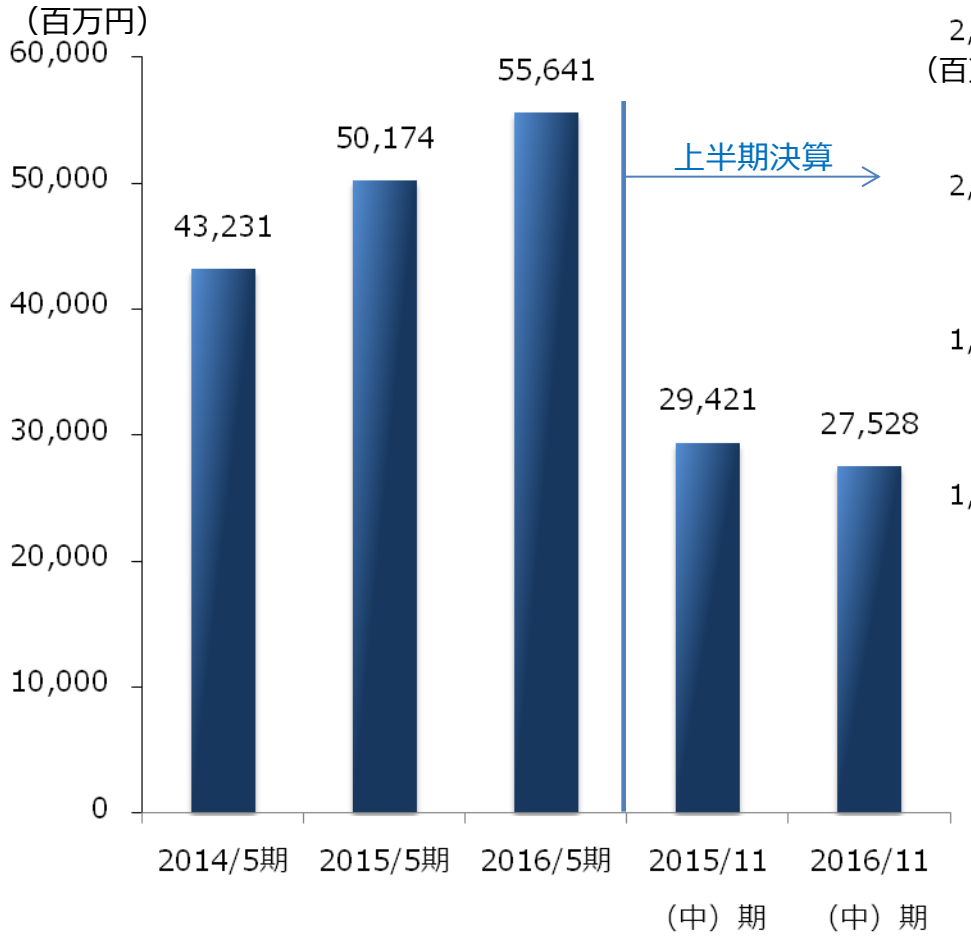
＊以下、「当期純利益」と呼びならわした部分は「親会社株主に帰属する四半期純利益」を意味するものとします

2017年5月期第2四半期決算状況

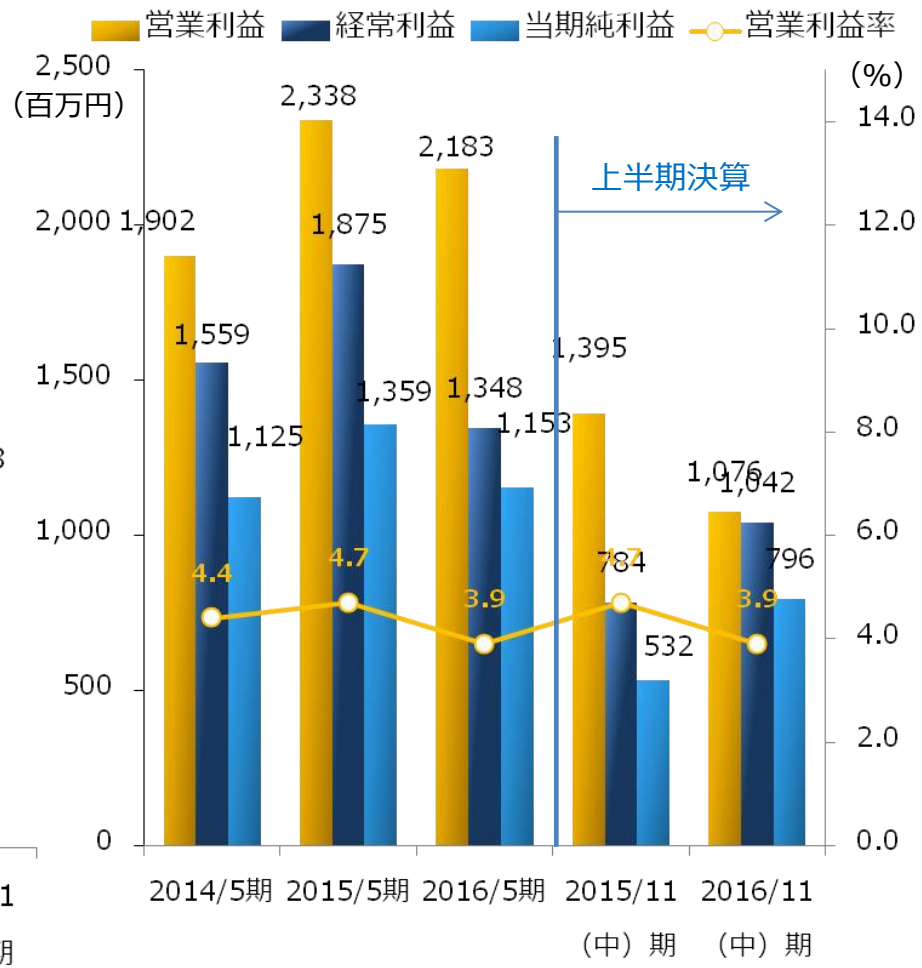
	2015年11月期（中）		2016年11月期（中）				
	金額（百万円）	構成比（%）	計画 2016.7.7	金額（百万円）	構成比（%）	前期比 増減額（百万円）	前期比 増減率（%）
売上高	29,421	100.0	27,500	27,528	100.0	△1,892	△6.4
売上総利益	4,637	15.8	-	4,210	15.3	△427	△9.2
販管費	3,241	11.0	-	3,133	11.4	△108	△3.3
営業利益	1,395	4.7	1,200	1,076	3.9	△318	△22.9
経常利益	784	2.7	800	1,042	3.8	+257	+32.8
当期純利益	532	1.8	600	796	2.9	+264	+49.7

売上高・営業利益・経常利益の推移

売上高

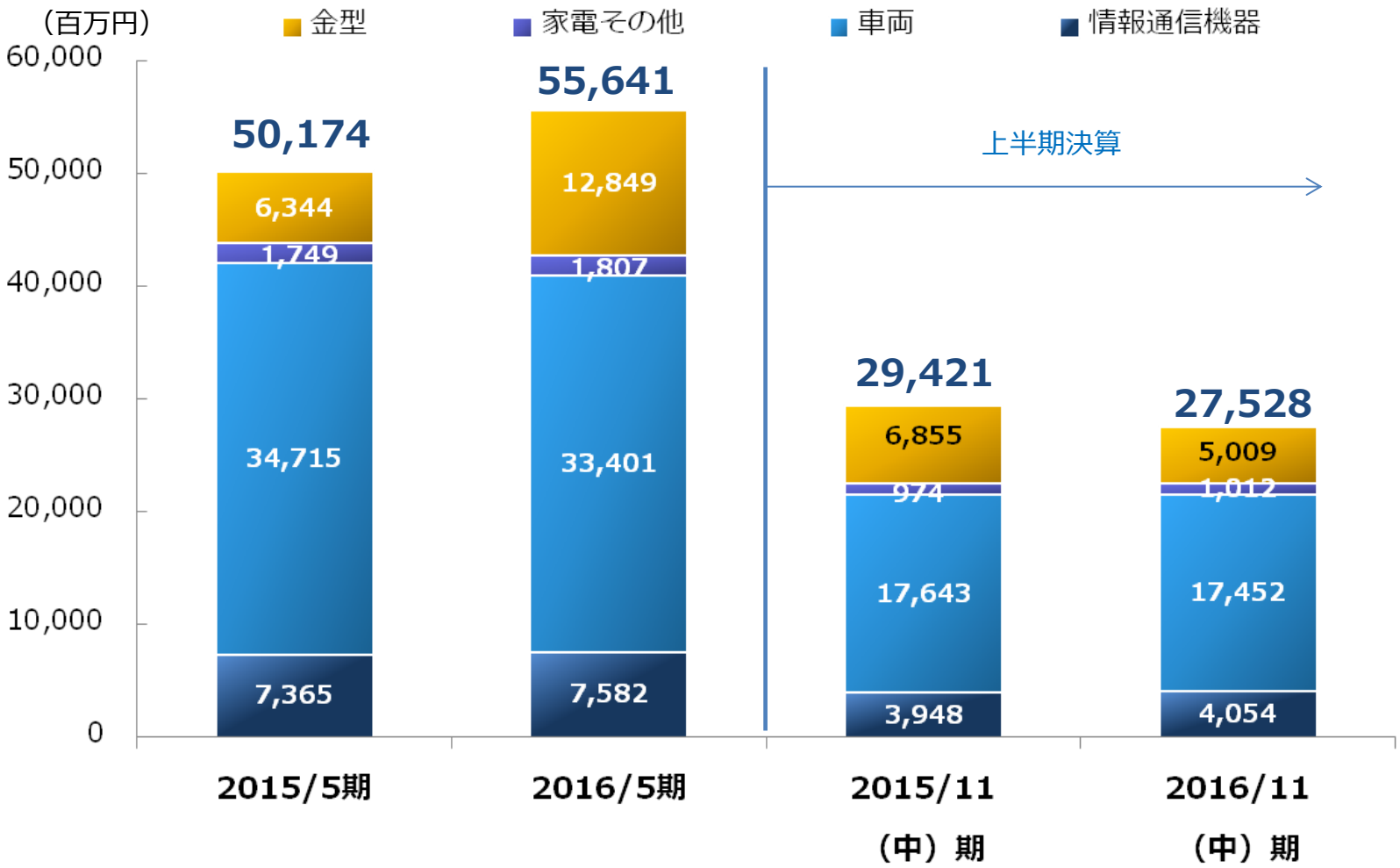


営業利益・経常利益



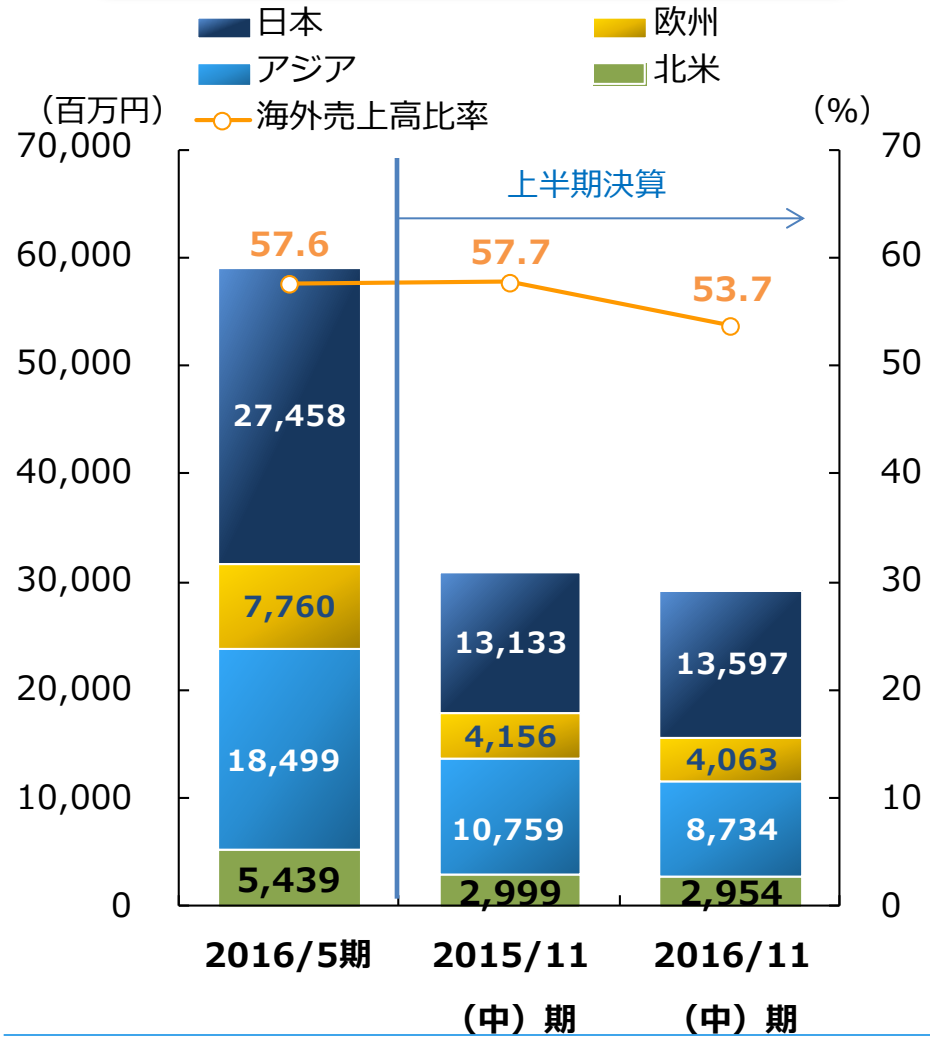
事業別収益状況

事業別売上高

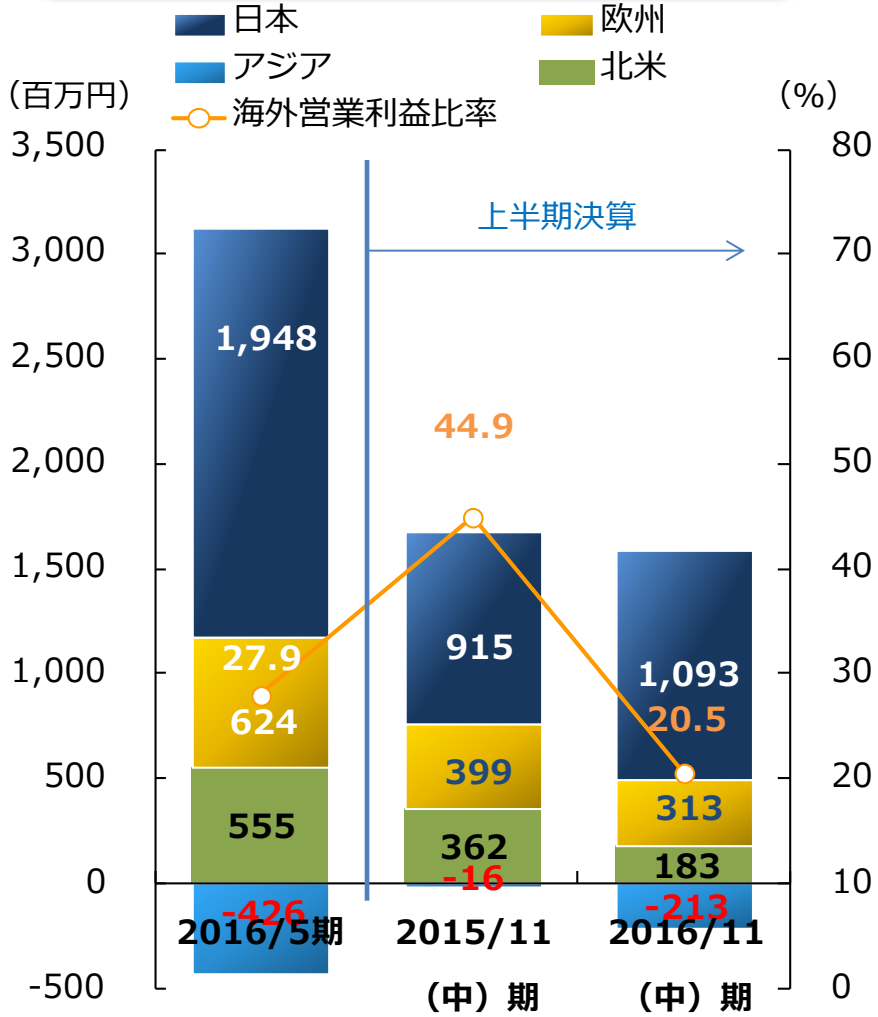


地域別売上高

地域別売上高

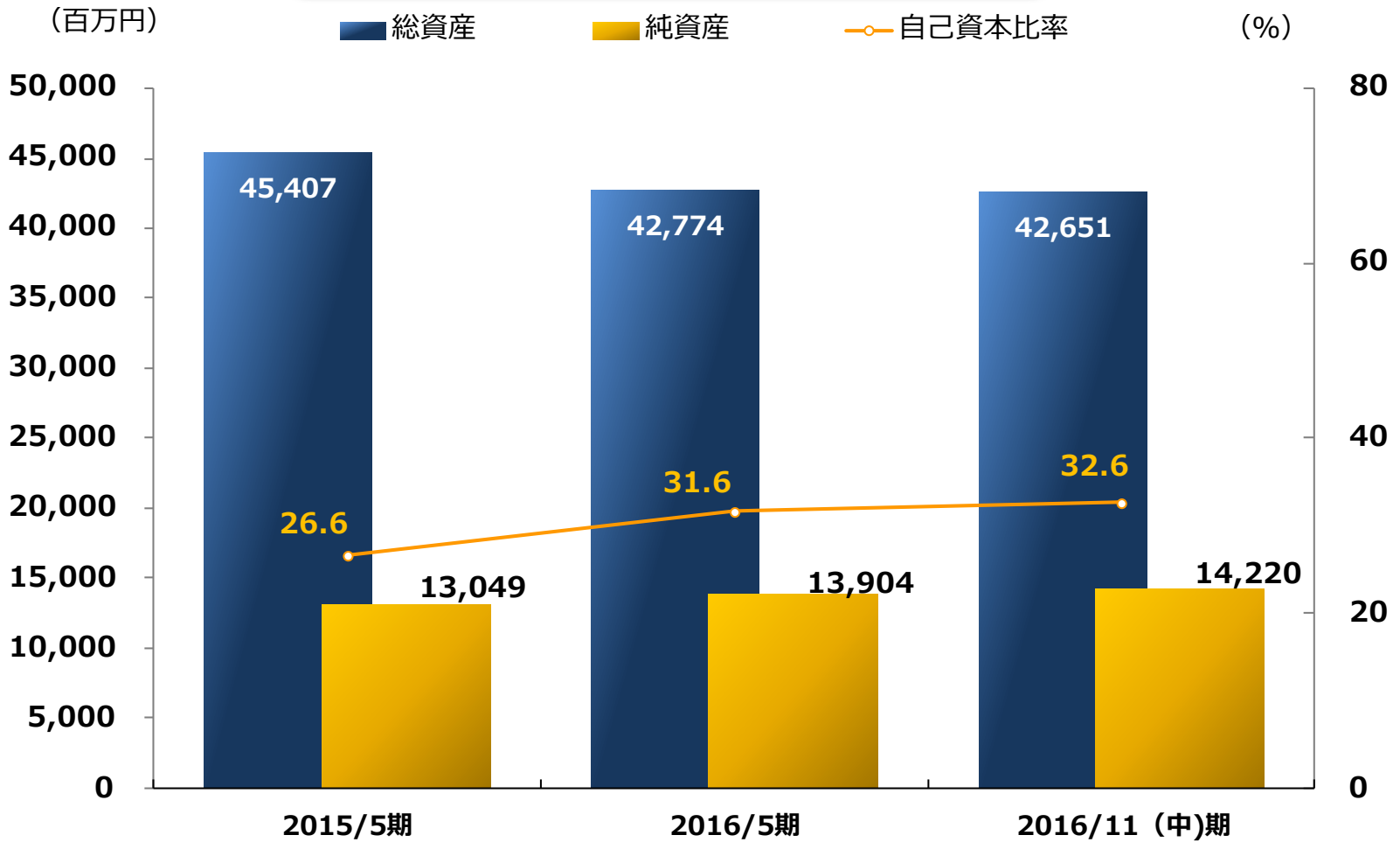


地域別営業利益



財務の状況

総資産・純資産・自己資本比率



貸借対照表の概要

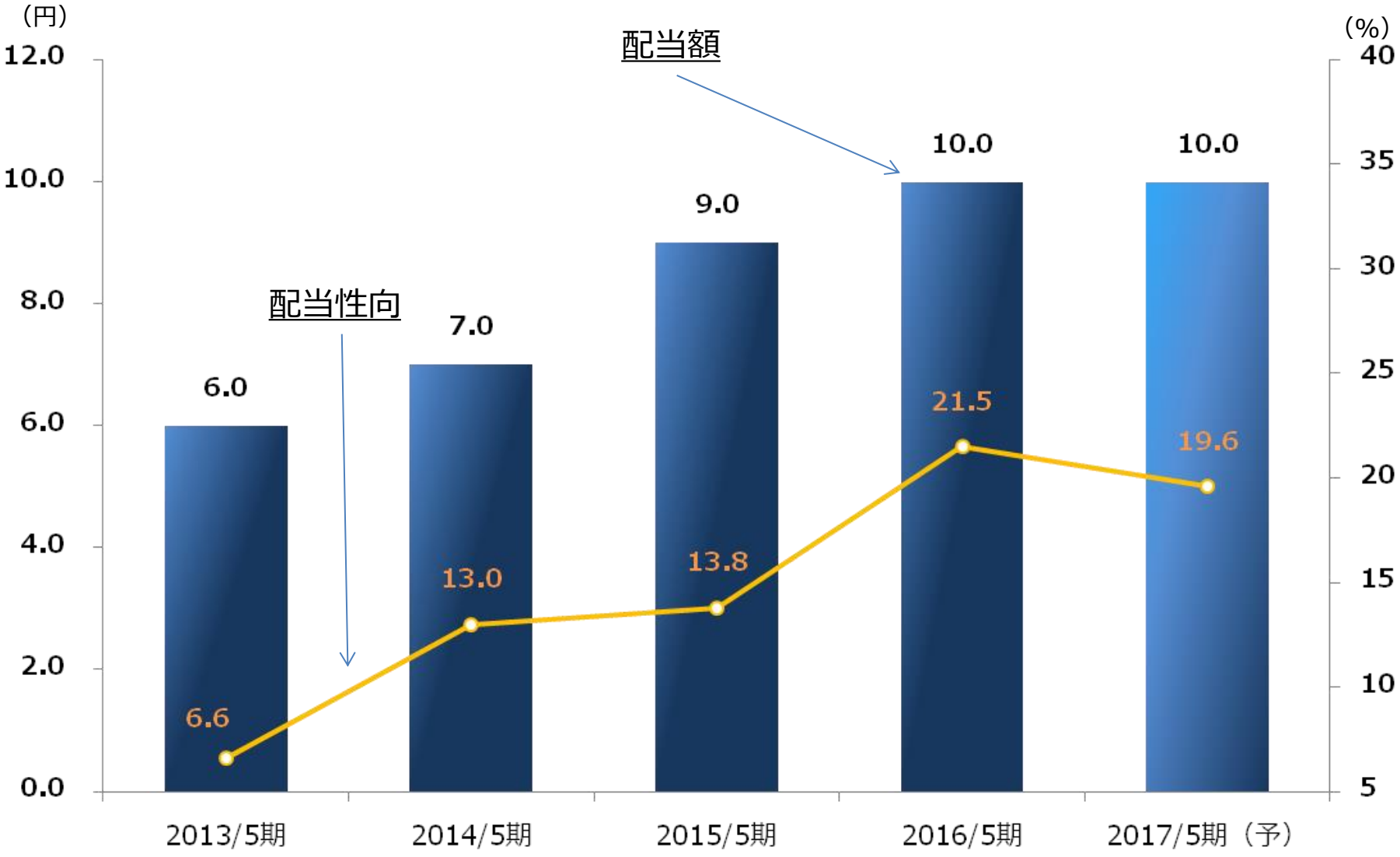
	2016年5月期		2016年11月（中）期		
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	増減額（百万円）
流動資産	22,711	53.1	22,818	53.5	△106
（現金・預金）	5,505	12.9	5,707	13.4	201
（売上債権）	11,955	28.0	11,399	26.7	△556
固定資産	20,062	46.9	19,833	46.5	△229
（有形固定資産）	18,117	42.4	18,080	42.4	△37
資産合計	42,774	100.0	42,651	100.0	△123
流動負債	19,070	44.6	18,861	44.2	△209
（仕入債務）	9,805	22.9	9,393	22.0	△411
固定負債	9,798	22.9	9,569	22.4	△438
負債合計	28,869	67.5	28,431	66.7	△438
（有利子負債残高）	12,187	28.5	11,797	27.7	△390
純資産合計	13,904	32.5	14,220	33.3	315
1株当たり純資産 （円）	529.77	-	545.78	-	16.01

キャッシュ・フローの状況

（百万円）

	2015/11（中）期	2016/11（中）期
営業キャッシュ・フロー	1,813	2,353
税金等調整前当期純利益	645	1,034
減価償却費	1,333	1,336
たな卸資産の増減額（△は増加）	947	△427
その他の資産の増減額（△は増加）	353	△304
仕入債務の増減額（△は減少）	△737	△125
その他の負債の増減額（△は減少）	△174	481
投資キャッシュ・フロー	△703	△856
有形固定資産の取得による支出	△689	△850
財務キャッシュ・フロー	△553	△1,085
長期借入金の借入れによる収入	2,800	750
長期借入金の返済による支出	△859	△1,341
株式の発行による収入	1,989	-
現金及び現金同等物の増減額	381	201
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,897	5,707

配当政策について


（円）
（%）
配当額
配当性向
12.0
10.0
8.0
6.0
4.0
2.0
0.0
40
35
30
25
20
15
10
5
6.0
7.0
9.0
10.0
10.0
6.6
13.0
13.8
21.5
19.6
2013/5期
2014/5期
2015/5期
2016/5期
2017/5期（予）

2017年5月期 連結業績予想

三光合成株式会社

2017年5月期下期以降に向けての取組み

新組織

1．新組織

R&D部門　　―　グローバルテクセンをコントロール

TKチーム　　―　特化した客先開発チーム

2．金属光造形複合加工機（3Dプリンター）による金型部品製作

3．炭素繊維事業部　―　加工技術開発・試作・量産化、技術提携

『グローバルテクセン』

1．日本、米国、欧州、アセアン、中国にテクニカルセンターを設立

設計、生産準備等の相互補完　⇒　必要時に人員が移動

2．日本、インドでの金型製造　⇒　各国へ供給

2017年5月期通期の見通し

- 金型事業のさらなる拡充（エスバンス、SANKO SVANCE JRG TOOLING INDIA）
- 米国市場への再参入
- 炭素繊維部品の商品化への準備

■ 売上高は車両分野の受注増により前期比0.6%増の56,000百万円を見込む

- 情報・通信機器事業: 8,000百万円 （前期比 5.5%）
- 車両事業： 36,000百万円 （前期比 7.8%）
- 家電・その他事業： 2,000百万円 （前期比 10.7%）
- 金型事業： 10,000百万円 （前期比 ▲22.2%）
  - 金型の成長は、さらに先々の成形品売上高に寄与していく

■ エスバンス、STU（Bhar Inc.）はともに初年度から利益にプラス貢献

- 営業利益 ： 2,400百万円 （前期比 + 9.9%）
- 経常利益 ： 2,000百万円 （前期比 +48.3%）
- 当期純利益 ： 1,300百万円 （前期比 +12.7%）

米国再進出の状況

2015年4月に現地企業 Bhar Inc.から事業の譲受
SANKO GOSEI TECHNOLOGIES USA INC.として連結子会社化

※自動車ティア2からティア1ビジネスへ
　日系完成車メーカーをターゲット
※金型ビジネス
　子会社エスバンスの金型販売（お客様内製用）
※テクセン
　設計ビジネス

Honda of South Carolina Mfg., Inc.とのアカウント開設

バギー部品の受注が決定
2018年8月量産予定

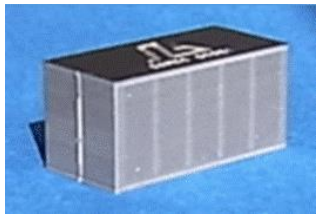
Honda R&D America, Inc.とも口座開設

本命の４輪ビジネスへの足掛かりへ

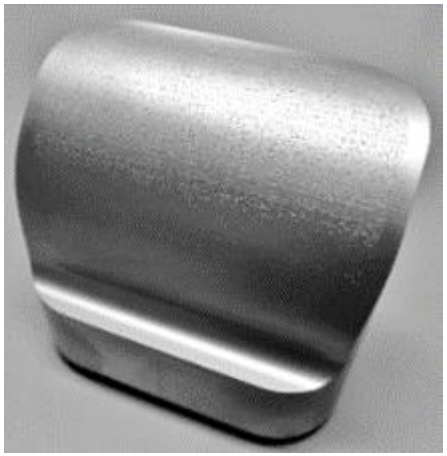
新しい技術・分野への試み①：ガス抜き入子

金属金型が抱えていた問題点：
表面処理が粗いと、成形時にガスが発生⇒不良品の発生

１．SG－WIND（ガス抜き入子）
・当社オリジナル商品
・現在、拡販策として東証１部　株式会社ミスミとタイアップ検討中。
（２月から試作・評価、今夏を目途に拡販予定）



２．３Ｄプリンター製ガス抜き入子
・当社オリジナル商品
・３Ｄプリンターによりガス抜き入子を製作
・あらゆる金型形状に適用可能



ガス抜き入子として、当社及び子会社での量産用金型に３００個以上採用

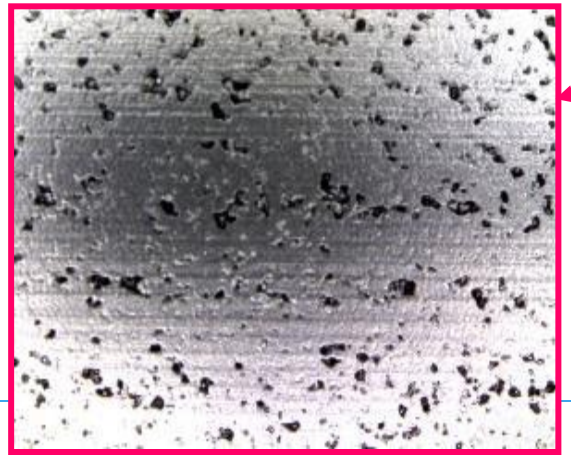
ガス抜き入れ子：量産型への適用事例

成形時ガス発生不良削減

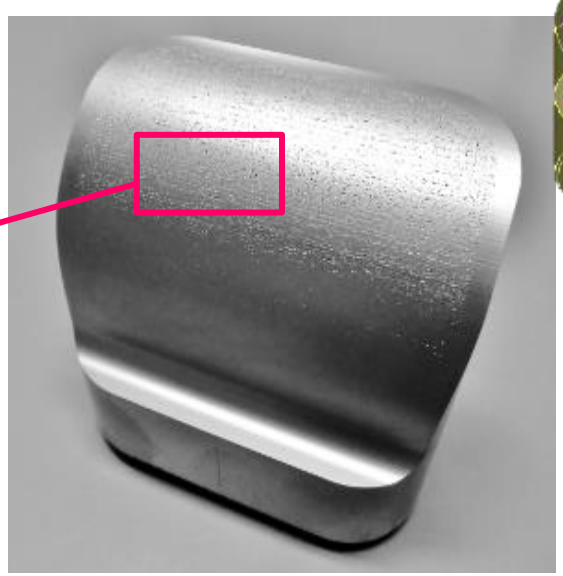
金型表面　ポーラス状で加工
金型表面からガスを抜く

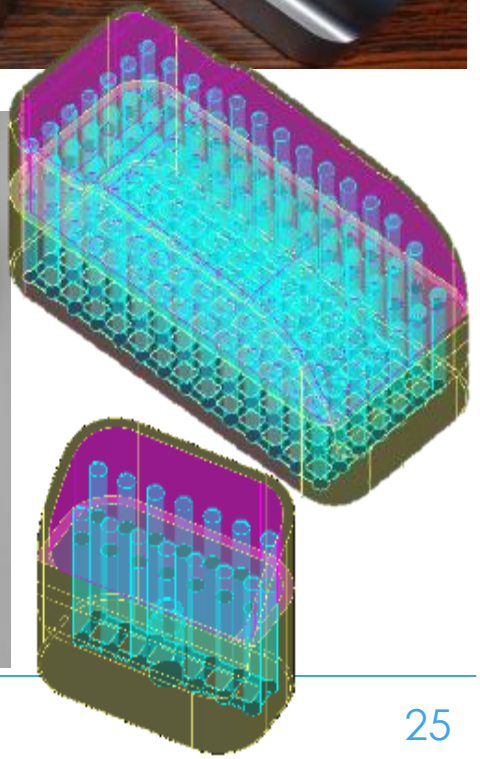
レーザー条件で粗密をコントロール

切削面詰まり発生



50倍





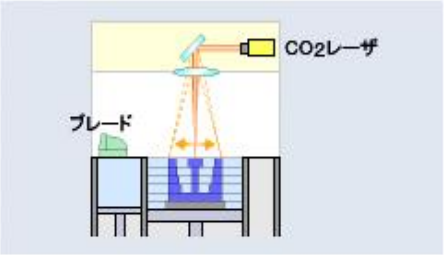
新しい技術・分野への試み②：金属3Dプリンターの発展

LUMEX Avance-25の特徴

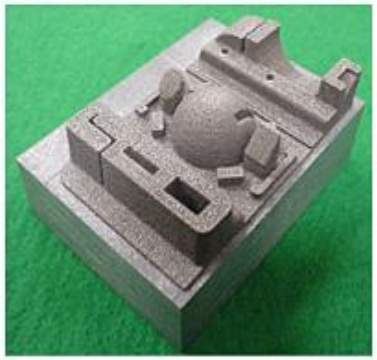
2013年12月導入
Ybファイバーレーザ　400w仕様
最大ワークサイズ
250×250×185mm（補助ベース含む）

従来工法

従来
金属光造形加工機



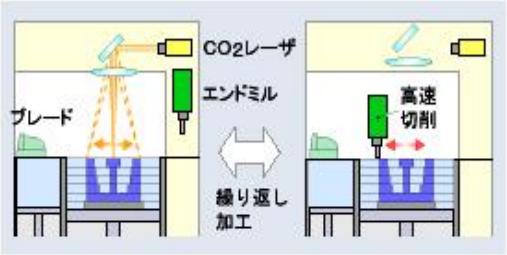
■仕上がり状態



Ry ≒
数百μm

金属光造形複合加工

金属光造形複合加工機
LUMEX25C



■仕上がり状態

Ry ≒
1μm 以下

2017年2月導入予定の新型機種

Source of QUALITY
Source of POWER
Source of the FUTURE
HYBRID METAL 3D PRINTER

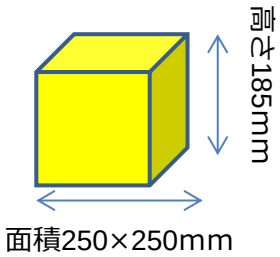
LUMEX Avance-60

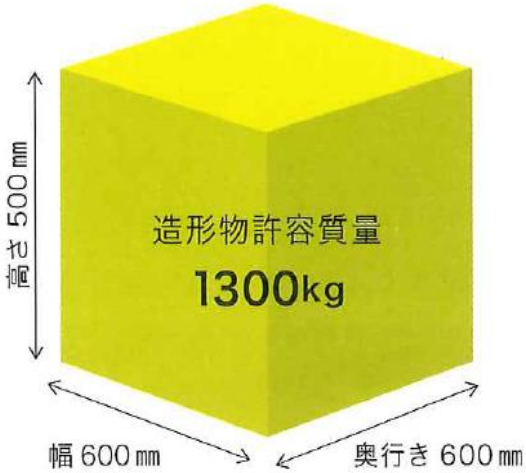
ハイブリッド金属３Ｄプリンタ

ファイバーレーザによる「金属光造形」。
マシニングセンタによる「高速・高精度切削加工」。
最新機能は、驚きのスペックを実現。

加工スピードは5倍に

【従来機種】





[最大工作物寸法]

新しい技術・分野への試み③：インドへの更なる投資

現状：インドに３つの現地法人を保有
①SANKO SVANCE JRG TOOLING INDIA PVT LTD.（金型製造販売）
②SANKO GOSEI TECHNOLOGY INDIA PVT LTD.（エンジニアリング）
③SANKO GOSEI JRG AUTOMOTIVE INDIA PVT LTD.（成形品製造販売）

③のSANKO GOSEI JRG AUTOMOTIVE INDIA PVT LTD.（成形品製造販売）は、合弁解消。**グジャラート州に新たな成形工場を新設計画**

インド グジャラート州

・ナレンドラ・モディ首相の出身地
・インド唯一の売電州（電力事情の安定）
・港湾に非常に近い（輸出対応可能）
・日系企業２８社進出

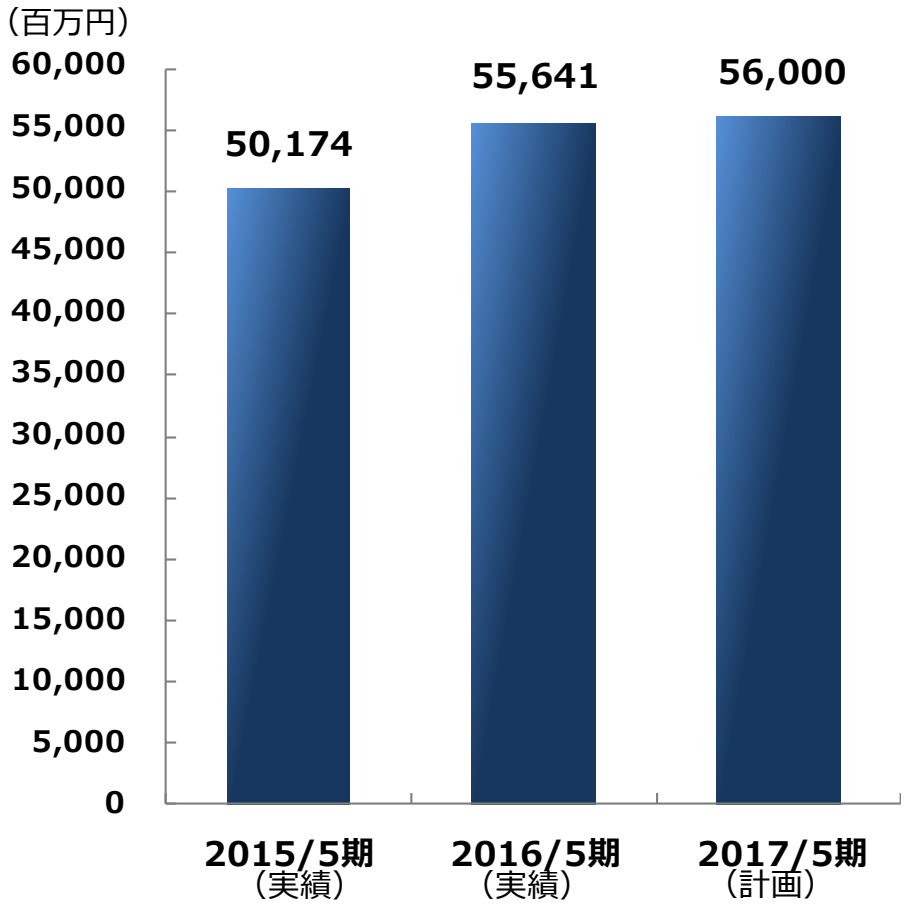
2017年5月期業績見通し

	2016年5月期（実績）		2017年5月期（計画）			
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	前期比	
					増減額（百万円）	増減率（%）
売上高	55,641	100.0	56,000	100.0	359	0.6
売上総利益	8,807	15.8	-	-	-	-
販管費	6,623	11.9	-	-	-	-
営業利益	2,183	3.9	2,400	4.3	217	9.9
経常利益	1,348	2.4	2,000	3.6	652	48.3
当期純利益	1,153	2.0	1,300	2.3	147	12.7
1株当たり当期純利益（円）	46.64	-	51.01	-	4.37	9.4
1株当たり配当金（円）	10.0	-	10.0	-	0.0	-

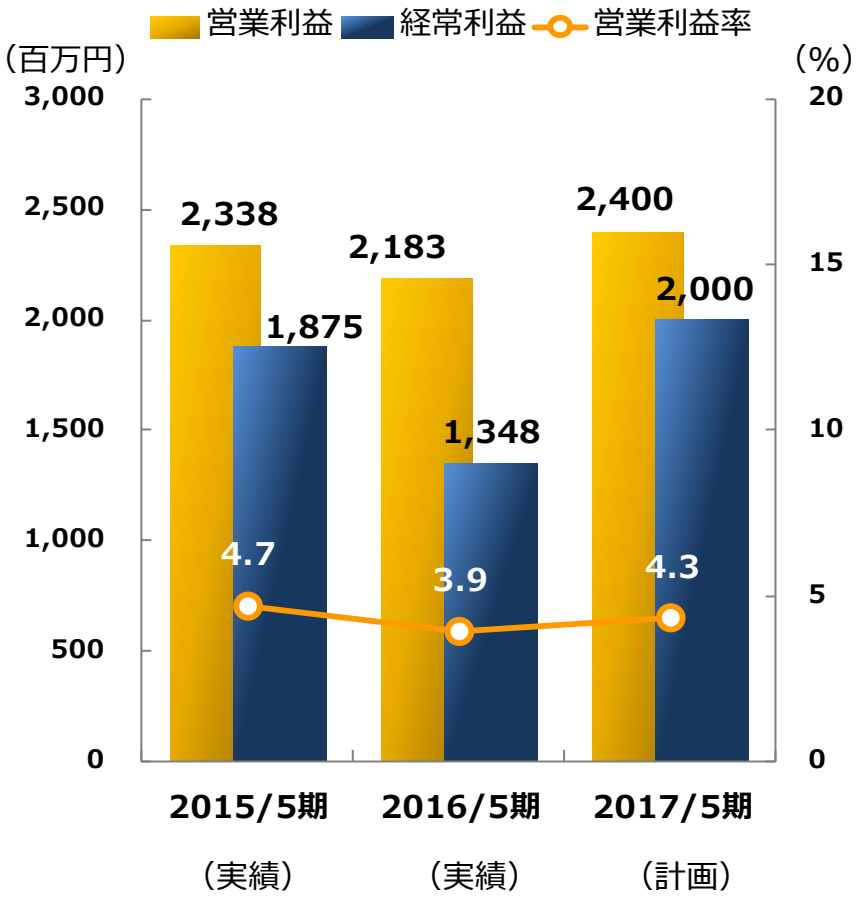
＊2016年5月期EPSは増資の影響を含んでいます

売上高・営業利益・経常利益の見通し

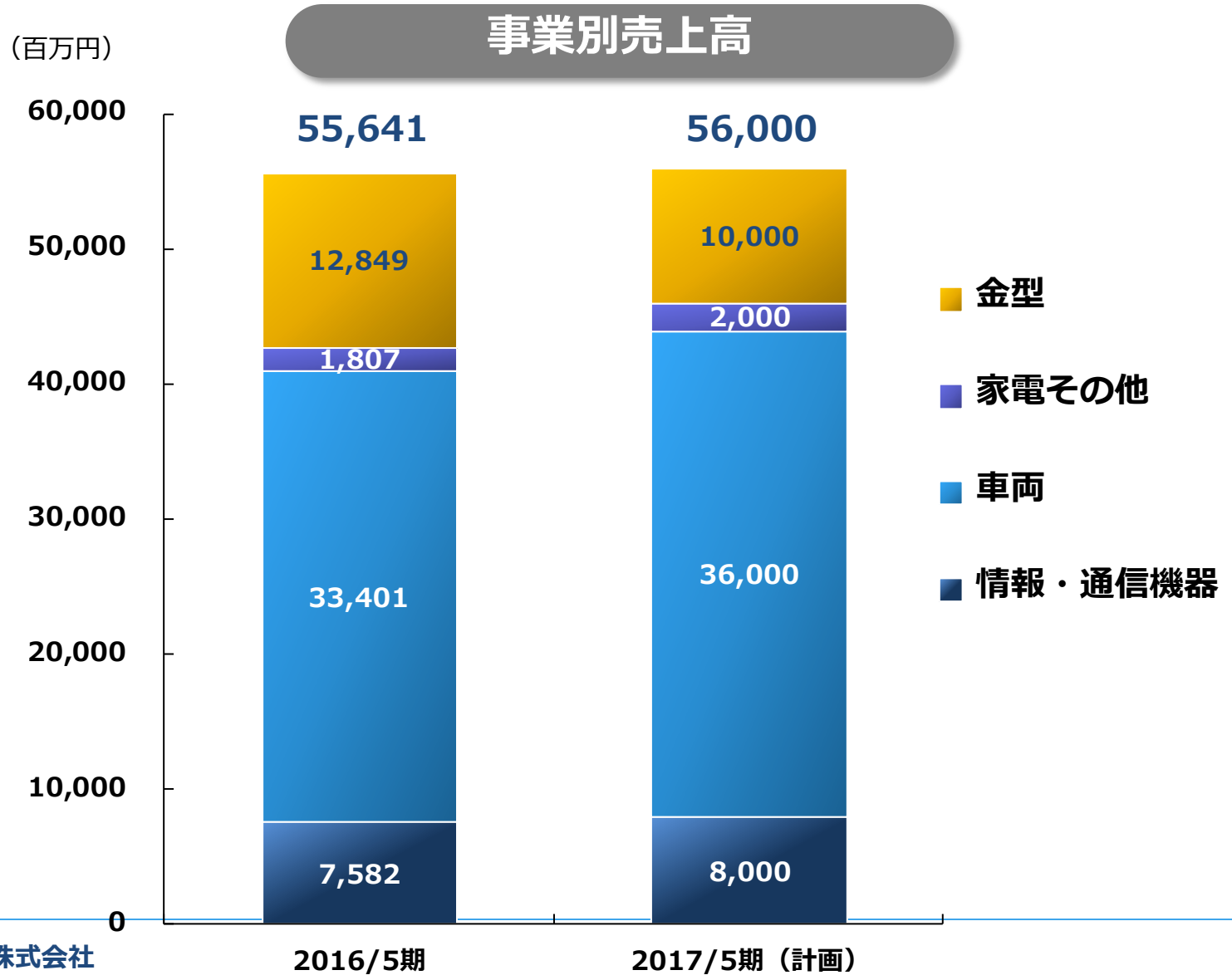
売上高



営業利益・経常利益

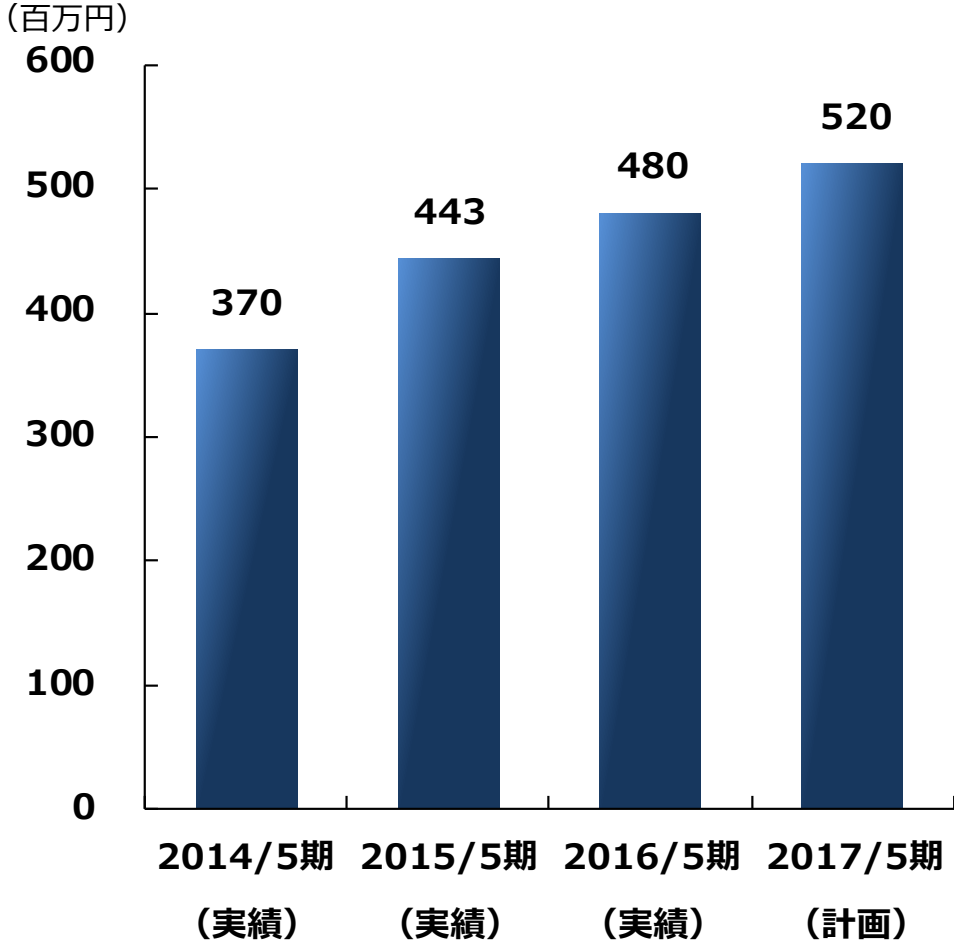


事業別収益の見通し

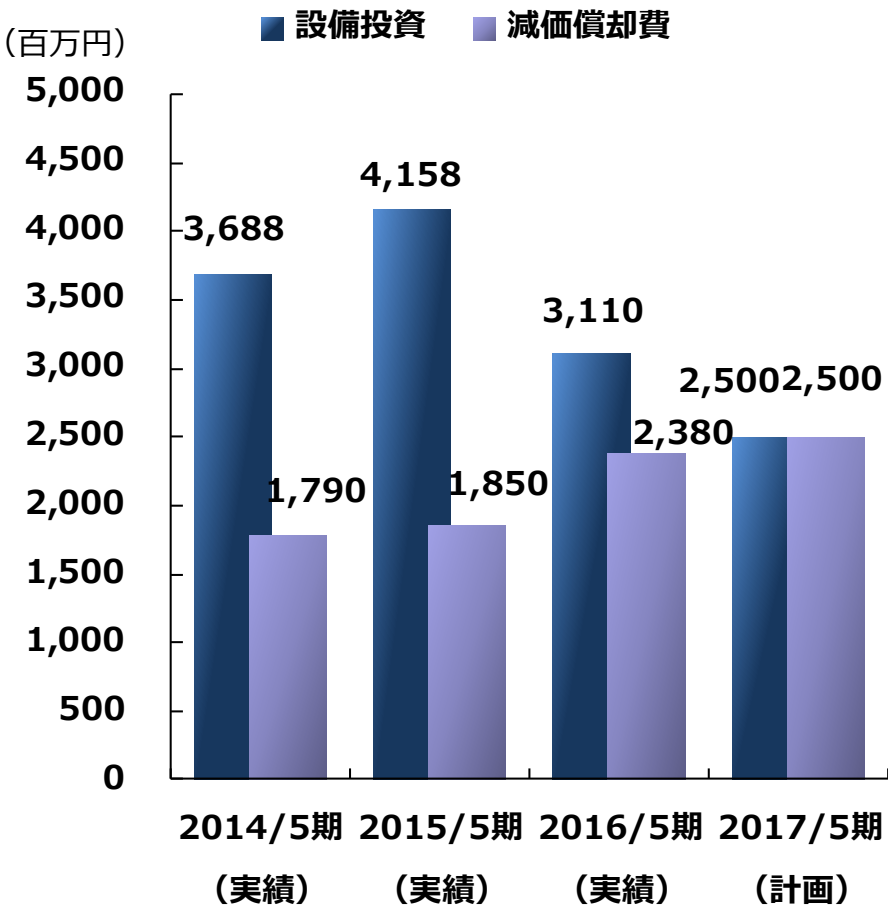

事業別売上高
（百万円）
60,000
50,000
40,000
30,000
20,000
10,000
0
55,641
56,000
12,849
1,807
33,401
7,582
10,000
2,000
36,000
8,000
金型
家電その他
車両
情報・通信機器
2016/5期
2017/5期（計画）

研究開発費、設備投資・減価償却費の見通し

研究開発費



設備投資・減価償却費



ディスクレイマー

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上での経営陣の判断に基づくものです。

これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

- 市場における価格競争の激化
- 当社の事業を取り巻く経済動向の変化
- 資本市場における大きな変動
- 為替レートの変動、特に日本円および米ドルの価値
- 原材料費の高騰
- 課税環境の変化
- 経営陣が計画した水準かつ時期に、生産効率を実現して資本支出を実行する能力
- 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、当社への投資に対する勧誘とは解釈されないものとします。

お問い合せ先：
三光合成株式会社
管理部門　芹川（せりかわ）　0763-52-7105